

「神経変性疾患における神経炎症の役割」

講師：山中 宏二（やまなか こうじ）先生

名古屋大学環境医学研究所

病態神経科学分野 教授

日時：12月10日（金）17:00～18:00

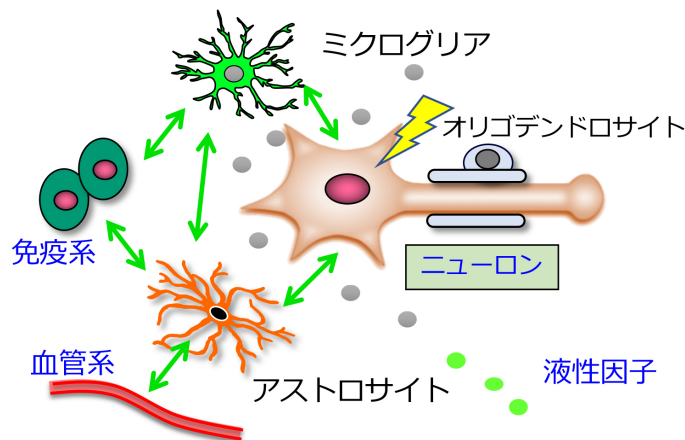
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス

医学研究科研究棟11階 講義室A



神経炎症は、筋萎縮性側索硬化症（ALS）やアルツハイマー病などの神経変性疾患の病巣における活性化したグリア細胞や免疫細胞による神経保護性あるいは毒性反応を指す用語であり、その病態への関与が注目されている。ミクログリアは、神経炎症の鍵となる自然免疫細胞であり、脳の生理的機能や病態において新たな役割が報告されている。本講演では、ALS やアルツハイマー病のモデルマウスの解析を通じ、神経炎症が病態に積極的に関与し、治療標的となり得ることなど、最近の研究の進捗を紹介する。

神経周囲環境に着眼した神経変性疾患の病態解明と制御



略歴

1992年京都大学医学部卒業。脳神経内科臨床医を経て、2000年京都大学博士（医学）取得。米国UCSD博士研究員、理化学研究所脳科学総合研究センター・ユニットリーダー、チームリーダーを経て、2013年より名古屋大学環境医学研究所教授（現職）。2016～2020年同研究所長（兼務）。

- * コロナウイルス感染拡大防止策としまして、以下を行います。ご了承お願い致します。
- ・ 一席以上空けた着席で、定員の半数になるまで入場可能です。（講義室Aは定員約180人）
- ・ マスク着用の方のみ入場頂けます。（体調不良の方はご遠慮下さい）
- ・ 入口に設置したアルコールによる手指消毒にご協力ください。
- ・ 換気対策を十分にさせていただきます。

世話人：齊藤 貴志（大学院医学研究科）

TEL：052-853-8196， e-mail：saito-t@med.nagoya-cu.ac.jp